

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

| 目次                        | Pages |
|---------------------------|-------|
| ➤ JRRN 事務局からのお知らせ         | 1     |
| ➤ 会員寄稿記事                  | 3     |
| ➤ 「水辺からのメッセージ」100号記念特集    | 6     |
| ➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ | 14    |
| ➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介      | 15    |

## JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

### ARRN (アジア河川・流域再生ネットワーク) – 「第 12 回 ARRN 運営会議」開催報告

アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の理事会に当たる「第 12 回 ARRN 運営会議」が、第 37 回 IAHR 世界会議に合わせて 2017 年 8 月 17 日 (木) にマレーシア・クアラルンプール市にて開催されました。

本会議には、日本・中国・韓国の各 RRN メンバー、玉井信行・ARRN/JRRN 顧問、またイランや台湾なども参加し、ARRN の今後の活動計画やネットワーク拡大に向けた審議が行われました。また、本年の ARRN 運営会議では、ARRN 規約に基づき、ARRN 会長及び ARRN 事務局が韓国 (KRRN) から日本 (JRRN) へ移管され、新 ARRN 会長に金尾健司 (公益財団法人リバーフロント研究所・代表理事) が選出されました。合わせて、ARRN 事務局長に土屋信行・JRRN 代表が任命され、今後 2 年間は、JRRN が ARRN の事務局を担い、河川再生分野のアジアのハブの機能を務めてまいります。

#### 第 12 回 ARRN 運営会議 次第

##### <報告事項>

- ・CRRN (中国), KRRN (韓国), JRRN (日本) より過去 1 年間の活動概要報告

##### <ARRN 会長選出・ARRN 事務局長任命>

##### <審議事項>

- ・ARRN の更なるネットワーク拡大について
- ・ARRN 委員会活動の更なる活性化について
- ・2018 年の ARRN 活動計画について

→第 12 回運営会議の「議事次第」「参加者名簿」(英語版) や過去開催記録はこちらから (PDF 80KB):

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/800.html>

(JRRN 事務局・和田彰)



ARRN 会長及び ARRN 事務局の引継ぎ式  
金尾健司・新会長 (左)、Suk Hwan Jang・前会長 (右)



ARRN 運営会議後の記念撮影

## JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

## ARRN (アジア河川・流域再生ネットワーク) – 「第 14 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」 in マレーシア(2017年8月17日) 開催報告

2017年8月17日(木)、アジア河川・流域再生ネットワーク主催「第14回ARRN国際フォーラム」が、第37回国際水理環境学会国際会議(37<sup>th</sup> IAHR World Congress)のスペシャルセッションとしてマレーシアのクアラルンプールにて開催されました。国際フォーラムのプログラムと概要について紹介致します。

今回のフォーラムでは「気候変動下における河川再生のためのガバナンス」をテーマに、中国、韓国、日本の各国から7件の研究発表があり、その後、パネルディスカッションが行われました。

### 第14回ARRN水辺・流域再生に関わる国際フォーラム 概要

- (1) 日時: 2017年8月17日(木) 9:30 – 13:00
- (2) 場所: Putra World Trade Centre (PWTC), クアラルンプール, マレーシア
- (3) 主催: アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)
- (4) テーマ: Function of Governance to River Restoration under the Climate Change
- (5) プログラム:
  - 9:30-9:45 開会挨拶・来賓挨拶
  - 9:45-11:00 研究発表【1】計5発表
  - 11:30-12:00 研究発表【2】計2発表
  - 12:00-12:55 パネルディスカッション:
    - <コーディネーター>
    - Suk Hwan Jang (ARRN 会長)
    - <パネリスト>
    - Jin Chul JOO (Korea / Hanbat National University)
    - Xiaosong WANG (China / IWHR)
    - 山田正 (中央大学)
    - <コメンテーター>
    - Sung Uk CHOI (Korea / Yonsei University)
    - Jinyong ZHAO (China / IWHR)
    - 福田勝之 (国土交通省水管理・国土保全局河川環境課)
  - 12:55-13:00 閉会挨拶:

研究発表では、CRRN (中国) の事務局を務める中国水利水電科学研究院から「中国における河川再生の技術と実践の向上」、「高濃度の土砂が黄河のコイに与える影響の評価」の2件、KRRN (韓国) の事務局メンバーである Hyun-han Kwon 教授 (Chonbuk National University, Korea) の学生による1件「非定常の3変量モデルを用いた気候変動下における干ばつのリスク評価」、そして日本からは、山田正教授 (中央大学) の学生による3件「急縮部を有する河川における水位の時間的流出特性と河道貯留効果」、「湖沼・ダム貯水池

における不確実性を考慮した水質浄化対策の提案」、「確率微分方程式に基づく降雨強度の不確実性を考慮した流出解析」、JRRN 事務局から1件「河道掘削後の植生を予測する指標としての平常時の水位からの比高」の計4件の発表がありました。



ARRN 会長の Jang 教授がコーディネーターを務めたパネルディスカッションでは、パネリスト3名、コメンテーター3名から、研究発表内容を踏まえ、気候変動下における研究成果の活用や取り組みの進め方についてそれぞれコメントがありました。



また、会場からも積極的に意見が出され、ARRN の拡大に向けた南アジアとの連携の提案、また環境倫理や社会科学の視点も含めたアジアの河川再生のガイドライン構築の必要性など、人と自然が共生してきたアジアの社会・文化的背景を踏まえ、今後のARRNの活動の方向性を定めていくべきとの貴重な提案も頂きました。

(JRRN 事務局・内藤太輔)

9月



撮影：2013年4月（新潟県新潟市 新川右岸）



## あの日のあの川 リレー日記 ～第32話～

あの日のあの川  
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

## 第32話主人公 岸田まりな

（筑波大学大学院 システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川（直）研究室『川と人』ゼミ）

（■川ガール・□川系男子）

（出身地を流れる川：茨城県小貝川、利根川）

## 「新潟4年間」

いつのこと？：大学

どこの川？：新川、信濃川

川を研究対象として見るようになってから半年ほど経つ。それまでは当然そこにあるもので、特に意識を向けるものではなかった。イメージとしては道路と同じ。いろいろなところにある。必要だけど、とりわけ観察対象になることはない。そういう意識だった。

小学校の校歌にも「利根と小貝に恵まれて」と出てくるように、幼いころから川のある環境で育った。もっとも、小学生の頃は歌詞の意味を理解していなばかりか漢字にさえ直せていなかった。「利根と小貝に」が「『とねとこ』買いに」だと思っていた。「とねとこ」は近くにあった保育園の名前に似ていたので、その保育園を思い浮かべながら歌っていた。これほどデタラメな意味のまま、よく6年間も歌い続けたものだ。今振り返ればかわいい頃も自分にはあったのだと思う。

そんな故郷を離れて独り立ちに片足をかけたのが大学入学だ。新潟で住むと決めたアパートの窓開けると目の前の住宅街の奥に山があった。また見下ろすと川が流れていた。10メートル以上ある崖の下に流れている新川だ。川と山と海に囲まれた土地に住みたいとひそかに思っていたので、少しワクワクしながら川を眺めていた。よく見れば見るほどに、あれ、思っていたよりも濁っていると気持ちが沈んでいった。きっと昨日雨が降ったからだろうと思っていたが、4年間一度も澄んだ水が流れるのを見ることはなかった。

新しく友達を作るのはあまり得意でなかったから、大学に入ってすぐはただ淡々と日々が過ぎていった。実家には姉妹がいたこともあり、静かな家で感じる寂しさに耐えられなかったこともある。この年になってと自

分で思いつつも、泣きながら親に電話していた。

大学にも慣れ、泣くことも親に連絡することもあまりなくなつた頃にベランダで潮のにおいを感じた。目を凝らして見ると見えるほどに海が近いのだ。見える海はもちろん日本海。滅多に晴れない新潟だが、運よく夕日が沈むのを見たときには思わず写真に収めてしまった。海から新川、その周辺の家々までが夕日と同じ色に染められ、また暗く影となり綺麗なコントラストが描かれていた。忙しかったり、緊張していたりする日々の中でほっと心が和らぐ時間だった。友達関係、勉強、研究、アルバイト、恋愛・・・何か悩みがあるたびにベランダから新川を眺めた。たまに風に乗ってやってくる潮風に何度も慰められた。海とはほぼ無縁のところに住んでいたため、海が近い



撮影：2014年（新潟県新潟市 新川右岸）

ことがひたすらに嬉しかった。同時に悲しいこともあった。中学の時から大事に使ってきたお気に入りの自転車は潮風で錆びてしまった。何かを得る時には何かを失う。そんなセリフをどこかで読んだ気がする。

川の両岸には小さな漁船が所狭しと並んでいる。いつだったか、河口がどうなっているのか気になって散策しに行ったことがある。コンクリートで固められた河口から船が海へと出発していく様子が見られる。小さい船が小さい河口から大きな海へ旅立っていく様子は勇ましかった。漁師さんには失礼ながら、ひっくり返ってしまうのではないかとヒヤヒヤしながら見ていた。この船が川を走っているのは、早起きして散歩していると見ることができる。小さい船がブオーと音を立て、水しぶきを上げながら明け方の海に走っていく様子はなかなかかわいらしい。そして船に立っているおじちゃんもついでにかわいらしく見える。

また利根と小貝の茨城に戻ってきてからは海のにおいがする川も漁船もご無沙汰になってしまった。

もう一つ、信濃川の大河津分水路にまつわる思い出がある。内閣府のプログラムで大学2年の夏に海外派遣され、その事後活動組織の全国大会が新潟で行われた。全国大会では各都道府県の事後活動報告のほか、開催県に関する分科会がある。団体に所属してから2年ほどの新米だったが、全国大会の実行委員長を務めることになり、分科会の一つとして大河津分水路を選んだ。

新潟では昔、川の氾濫が頻繁に起こっていた。米どころであるから洪水は住居だけでなく農業の面から考えても甚大な被害となる。そのため、川の右岸側か左岸側の堤防を意図的に切って一方の地域を守ったそう。どちらの堤防を切るかを決めるのは凧合戦だった。「三条六角」という言葉が有名であるように六角形の凧が燕三条の凧である。余談だが、地元の方々は「凧」と書いて「イカ」と読む。凧の文化が発達したのは洪水のせいであるが、洪水自体は望ましいものではない。これを根本的に解決したのが大河津分水路だとのことだった。信濃川を途中で分岐させ、流量を減らすことで洪水被害が起こらないようにした。

正直、最初にこの話を聞いた時にはそこまで魅力的なテーマとは思えなかった。歴史が好きな人にはいいかもしれないが、そうでない人にとっては大河津分水路のあらすじを知ったら十分であろうと思った。しかし、今考えると川が好きな人にも魅力的な分科会だったのだと分かった。そのうえ、自分がその一人になるとは思ってもいなかった。大河津資料館や魚道の観察などができた分科会に参加できなかったのは悔やまれる。実際に分科会に参加したのは20人ほどだったのだろうか。彼らは歴史好きなのか、はたまた川好きだったのか。

大学院に入ってから勉強会で大河津分水路の話題が出ると有名な構造物であったことを実感した。そしてそのたびに全国大会のことや六角凧のことを思い出す。

新潟で出会った川は、当時景色の一部でしかなかった。しかし景色と思い出が繋がっているように、川と思い出も繋がっていた。4年間は長いようで短かったが、たくさんの人と出会い、たくさんの経験をし、たくさんの思い出ができた。いつか、また新川と大河津分水路を見た時に次は何を思うだろう。

（次は今泉光華さんにバトンを託します）

## 水辺からのメッセージ No.100

岡村幸二 (JRRN 会員)

### 時代を越える橋：

ずっと変わらない橋の風景 大切に補修し使い続けたい



撮影：2017年8月（長野県上伊那郡・坂戸橋）

#### ◆村民の思いがつまったアーチ橋

昭和8年に完成した橋長77.8mの鉄筋コンクリートアーチ橋は、当時日本最大を誇りました。戦時中は親柱照明柱が金属供出で失われましたが、平成3年に地元の熱意で50年ぶりに復元されました。

#### ◆美しくデザインされた橋

渓谷に架かる橋としてはコンクリートアーチ橋が自然の背景によく似合います。橋の側面には余計な飾りが一切なく、高欄は支柱の区切りがまったくないため、細かい縦線が連続しているのが特徴です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

## JRRN ニュースレター連載『水辺からのメッセージ』100号記念特集

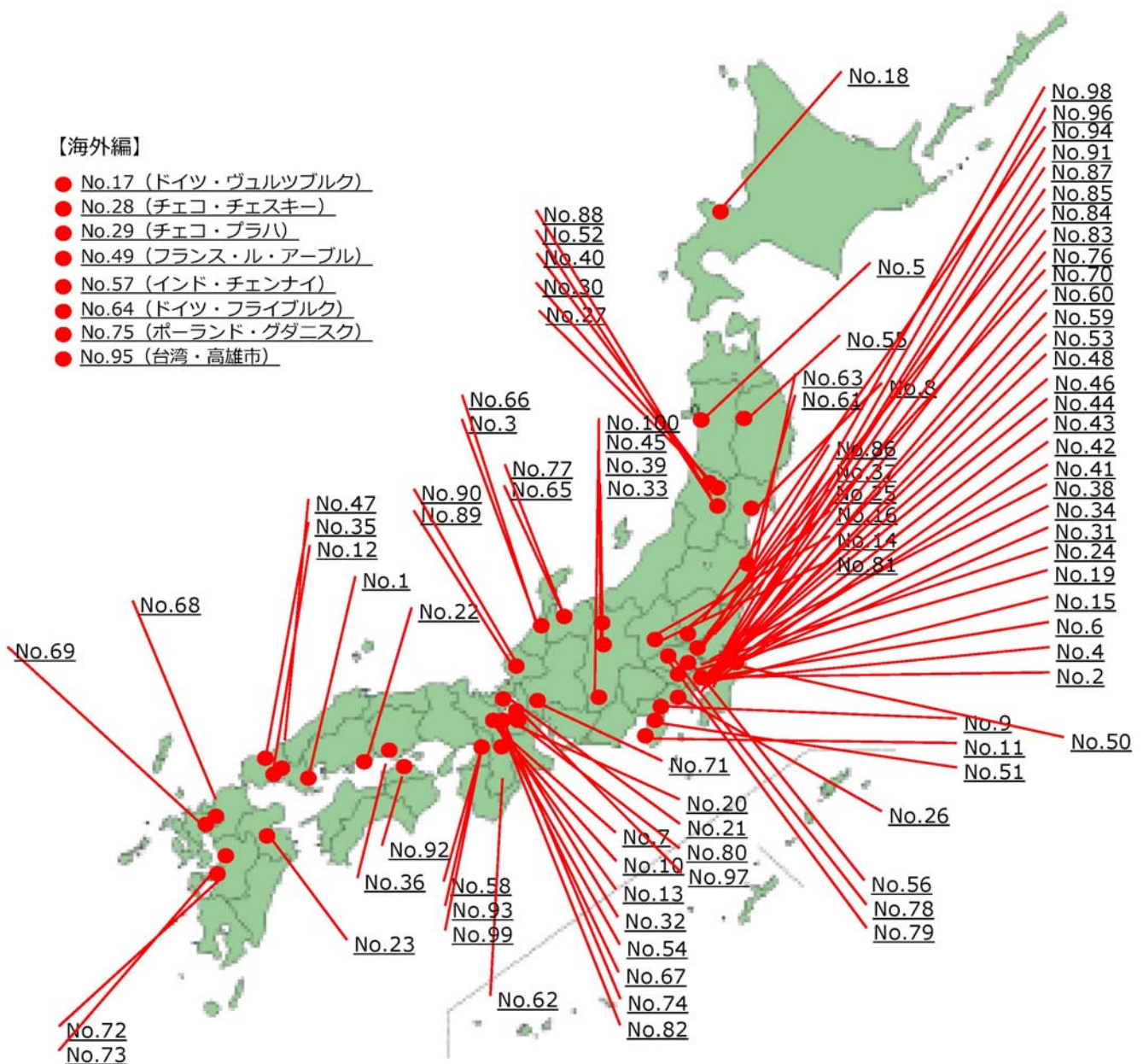
～岡村幸二さん 及び 会員皆様からのメッセージをお届けします～

2009年6月より本ニュースレターで連載を始めた岡村幸二さんによる『水辺からのメッセージ』が、8年以上に渡りひと月も休むことなく、遂に100号に到達しました。本特集記事では、100号記念にあたっての岡村幸二さんからのメッセージ、また JRRN 会

員より頂いたこれまでの作品への思いや感想などを皆様にご紹介させていただきます。なお、これまでの全100作品は JRRN ホームページにてご覧頂けます。

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/mizube>

【JRRN 事務局】



「水辺からのフォトメッセージ」全100作品の撮影地点一覧

## 「水辺からのメッセージ」100号にあたって

岡村幸二（JRRN 会員／株式会社建設技術研究所）

「水辺からのメッセージ」は、自身が撮影した写真により 2009 年 4 月から毎週発行してきた「フォトメッセージ」から、JRRN ニュースレターの内容にふさわしいものを選んだ、いわば「水辺版」フォトメッセージです。

水辺に係わる土木施設の風景を 1 枚の写真と短いコメントでどのようなメッセージを伝えるか。このヒントになったのは 10 数年前、国土交通省中部地方整備局の広報誌に、佐々木葉先生（現早稲田大学教授）が連載していた写真エッセイです。プロの写真家による町並みや土木構造物の大判写真に加えて、佐々木先生の洗練された文章で対象物の魅力を解説することで、まるで現場で風景を見ながらその解説を聞かされている気分になりました。自分もこれまでの土木技術者としての経験をフルに使って、1 枚だけの写真でモノの本質を伝え、短い文章で状況を的確に伝えてみたい。この難題に挑戦してみようと思いました。

「水辺からのメッセージ」の写真を撮る場所やテーマはどのように選んできたか、大きく 3 つの道筋があるようです。1 つ目は、日常の仕事や生活の中での水辺発見です。この場合、いつでもカメラの携帯が欠かせません。2 つ目は、TV や雑誌などで知った日本と世界の新しい水辺景観の場所を旅行計画に取り込んでいくことです。3 つ目は、社内外の研究活動のテーマでもある水辺のネットワーク、半公半私に係わる水辺・水網に焦点をあてて毛細血管にあたる水辺環境に着目して調査対象を探しました。その中で、人々の水辺に係わる生活・文化が浮かび上がるように意識しました。

なぜコメントを短くしているか。簡単にいえば「写真が主役で、コメントは脇役」であるからです。コメントは、あくまでも写真のねらいを間違いなく伝えるための補助的な役割です。それでも、このわずか数行の文章を作成するには、相当多くのことを調べ、それも控えめな表現で簡潔に表現することに努めています。

ここで、JRRN 会員の方々から感想やコメントを頂いた作品も含め、過去 100 回の水辺のメッセージの中から 7 回分をピックアップして、水辺のメッセージに取り上げた経緯やエピソードをご紹介します。

### 【1】世田谷区・等々力溪谷（NO.4）



等々力溪谷の流れは多摩川水系の谷沢川の溪谷部で、人工的に導水して流れを復活させた中小河川です。東京の地形・環境・水辺の特徴を色濃く表している対象です。自分が設計にも関わったことから、何度も訪れるたびに自然の度合いが濃くなっていくのが非常にうれしいです。

### 【2】山口市・一の坂川（NO.12）



1970 年代に、「ホテル護岸」といえば一の坂川でした。中小河川の整備に係わる技術者にとって知らない人はいませんでした。ただ、川の整備のイメージを知るものが、果たしてその後、このような街並みやサクラ並木を含めて想像できたでしょうか。やはり、素晴らしいところは、川単独ではなく、山あり、川あり、町あり・・・で、総合的な仕上がりが重要です。おそらく、川単独の整備に終わらせずに、地元がしっかりとまちづくりの中にインストールできたのでしょう。

【3】チェスキー・クルムロフのアウトドアスポーツ  
(NO.28)



「世界の街並み」関連のTV番組で、チェコのリゾート地を紹介していました。プラハからのオプションツアーでガイドと2時間半も車で突っ走って目的地に到着しました。城めぐりなどの案内をほとんど聞かずに、屈曲した川で遊ぶボートに見入っていました。

【4】北国街道・海野宿 (NO.39)



旧中山道のTV番組に海野宿が紹介されたことから興味を持ち、長野方面の旅行中に立ち寄りました。重要伝統的建造物群保存地区の前庭にあたるエリアにかつての水路の石垣や縁石が残されていることで、歴史街道の風情がより保たれていると思われます。

【5】フライブルク・ベヒレ (NO.64)



ドイツ・フライブルクを訪れた大学名誉教授から、ベヒレ（小水路）の素晴らしさを紹介されました。ベヒレは、中世の時代から町中を毛細血管のように張り巡らされた小水路網で、これを視察するためにフライブルク市を訪ねる計画をたてて、ベヒレのネットワークに沿って歩きながら、環境保護の先進都市の様々な取組みを発見していきました。

【6】佐賀市・石井樋 (NO.69)



石井樋の治水計画は歴史的にも有名であり、現代でも九州の筑後川水系の主要事業の一つです。独創的なアイデアで、水流を制御した「成富兵庫の治水流儀」は現代でも評価されています。自然に逆らわない治水制御方法は、美しくデザインされた施設の形状に反映される特徴の一つです。

【7】山形市・御殿堰 (NO.88)



以前の研究課題の一つである山形市を何度も訪れ、半公半私の水辺づくりである御殿堰を視察してきましたが、今では「水の町屋」と呼ばれる観光スポットになっています。水路復元に向けて市民側は、伝統的建築様式の取込みや石積み用水路の形状復元などの実現に向けて、継続的な努力を惜しみませんでした。

今後とも、水辺に展開される「自然」と「社会」の働きかけに注目しながら、読者の皆さまからの様々な感想やご意見に耳を傾けながら、味わい深い水辺空間メニューを幅広く紹介していければと思います。

## 「水辺からのメッセージ」 作品への JRRN 会員からのメッセージ



自身の生活圏の施設なので親しみがありません。  
カミソリ堤防の一部を残していることの意義を感じました。【作品 No.2 (隅田川)、Y.S】

過去に行ったことがあるのですが、写真のアングルで  
これほどまでにイメージがかわるとは驚きです。美しい写真と思います。【作品 No.9 (芦ノ湖)、Y.S】



私の田舎は、ご紹介いただいた那賀川の流れる松崎町の隣の下田市です。那賀川は桜の名所なので、私も幾度か見に行ったことがあり、懐かしく、紹介していただいて、うれしく思いました。のどかな清流で、南伊豆の一足早い春を感じることができて、好きな場所です。南伊豆には、那賀川よりも、河津桜で有名な「河津川」や「青野川」があり、観光でも盛り上がっているのに、なぜ地味な「那賀川」をクローズアップされたのでしょうか？チャンスがあればそちらも是非ご紹介下さい。【作品 No.11 (那賀川)、稲葉修一】

これまでのどの作品も魅力的ですが、その中でも強く心に残り、何度も岡村さんのこの作品を見過ぎて、まるで自分が以前に訪問したことがあるかのような錯覚に陥っているのが一の坂川の桜風景です。日本の美しさと気品がこの作品には凝縮されており、日本人であることを誇りに感じた一枚でした。200号を目指し、これからも素敵な作品を楽しみにしています。【作品 No.12 (一の坂川)、A.W】



都心の喧騒を忘れられる一枚ですね。【作品 No.15 (隅田川)、Y.S】



連載 100 号おめでとうございます！

岡村さんの作品は、全国津々浦々を紹介されていて、毎号とても楽しませていただいています。たまにある海外の写真もとても美しく、行ってみたいくなります。この作品は、わたしの故郷が登場しました。ガイドブックでよく見る鞆の浦の風景ではなく、独自の視点で撮られていたので、地元民としても「こんなふうに見えるところもあったんだ！」と新鮮でした。また、都内の水辺も、普通に見ると何気ない風景ですが、岡村さんにかかると、とても素敵な風景に写ってしまうのがとても不思議です。

200 号目指して、これからも私たちを楽しませてください。

【作品 No.22 (鞆の浦)、瀬尾弘美】

これも日本の原風景という感じです。どこか東南アジア的でもあり、子供に還って水遊びがしたくなるような水辺の風景です。【作品 No.21 (海津浜)、J.S】



日本らしい夜の温泉街と川で、自分もいつだったか行ったことがあるような気になります。心に残り、あたたかい感じです。また、こんな温泉にのんびり行って入りたくなりました。【作品 No.30 (銀山温泉)、J.S】

この作品を見て、今年の夫婦忘年会の場所は、銀山温泉に決めました。行ってみたい。

【作品 No.30 (銀山温泉)、竹内】



舟からの水辺風景で気持ちが良い一枚です。

【作品 No.34 (隅田川)、Y.S】

いい景観ですね。30 年ぐらい前、となりの栗橋に住んでいたときは行ったことがありませんでした（まだ出来てなかったかもしれませんが）。景観工学の大家である中村良夫先生(東工大名誉教授)が設計に関与されていて、5～6 年前、現地で直接先生から公園についての解説を伺う機会があって深い印象が残っています。【作品 No.37 (古河総合公園)、J.S】



四半世紀以上昔の話。学生時代に、北国街道のお隣の宿場である上田宿に住んでいました。実家のある上州安中藩への帰省の際などに、渋滞する国道 18 号の迂回路として旧北国街道を時々利用していましたので、海野宿の風景は懐かしいです。そんな景色をみせていただき、ありがとうございました。

その当ても格子窓やうだつのある家並みに、街道中央の水路が残っていて十分街道の面影を感じましたが、これほどまでに整理されてはいませんでした。激動の時代を経てさまざまな時代がまじり、少々うら寂しい雰囲気であったと思います。その頃に比べると、アスファルト舗装さえフレームに入れなければ、そのまま江戸の時代劇に出てきそうな素敵な雰囲気になっていますね。

上信越自動車道や浅間山麓広域農道など、国道 18 号を迂回できるルートが整備されて、旧北国街道も、一般車両の通行量は減ったものと思います。私も社会人になってからは全く通ることはありませんでしたので、また行ってみたいくなりました。通過車両が減っていればむしろ徒歩には好都合でしょうから、しっかり自分の足で歩いてみたいですね。

【作品 No.39 (海野宿)、上原励】





この水門は私が1977年に就職して最初の職場（土研）のすぐそばにありました。昼休みにはこの付近をよく散歩した記憶があります。当時は新しい水門の工事中でしたが、恥ずかしながら、どんな役割を持った施設なのか理解していませんでした。洪水のときは水門を閉めて洪水を全て荒川放水路に流して、東京の中心部を洪水から護る最重要な施設であることは後で知りました。【作品 No.44（岩淵水門）、J.S】

川の中から眺めている風景と、音が聞こえてくるようなタイトルが印象的です。いつも岡村さんの写真と文章を見て、「水辺の景観は多様で魅力的だな」「行ってみたいな」と思っています。私も水辺を訪れた際には、見て、聞いて、水辺空間の文脈を読み取って、メッセージとして何を伝えたいか考えたいと思います。【作品 No.55（中津川）、高橋裕美】



海岸が広すぎですね。でも、ゴミ拾いをしている素晴らしいと思います。

【作品 No.57（チェンナイ）、Y.S】



岡村さんの解説を読む前、写真を見た瞬間に大阪の道頓堀川の整備前の写真かと思いました。岡本さんの解説のようにここも道頓堀川に負けないような整備されるといいですね。お金は大阪よりいっぱいあるはずですから。【作品 No.59（亀島川）、J.S】



祭りのタイミングに合わせて現地に行くのはたいへんだっただろうと思いました。蛇足ですが、祭りの行列や人の表情がもう少しアップだったらもっと良かったかも。【作品 No.63（相馬市）、J.S】

この水辺にぜひ行ってみたいくなりました。岡村さんの水辺メッセージ全体の感想ですが、日本国内のみならず、海外の水辺まで、見た事のある景色やなじみのある景色まで、100号を振り返るととても見ごたえがあります。

「水辺」という事のみをテーマにまとめられたゆえに、バラエティに富んだ作品が揃っていてとても楽しいです。【作品 No.65（富山市湊入舟町）、C】





旅行で立ち寄ったことを思い出しました。夕暮れ時でほんのりライトアップもキレイでした。【作品 No.74 (高瀬川)、C】

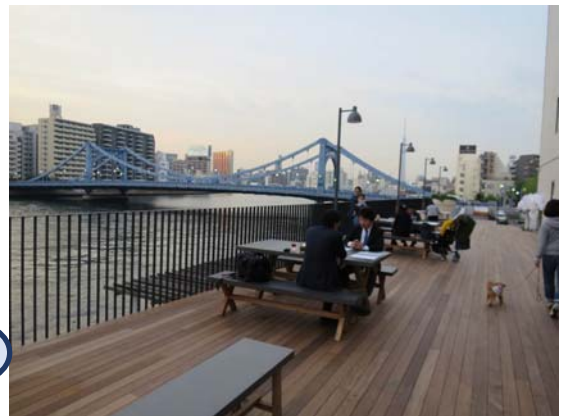
栗林公園は、高知に住んでいたときに何度か行ったことがあり、岡村さんと同じアングルで写真を撮ったのを覚えています。池と立派な松が印象的で、蓮の花のスケッチもしました。同じ日に牟礼にあるノグチイサム庭園美術館にも出かけたので、栗林公園からノグチイサムが連想されます。あとは讃岐うどん。先週末、津島の天王祭に出かけたら、ノグチイサムのお父さんヨネ・ノグチ生家がありました。これまた連想ゲームのように、津島天王祭と津島の街並みが栗林公園から思い出されるものに加わりました。中部の水辺が少ないように見えたので、ぜひ津島あたりにも散策に来られてください。ご案内いたします。【作品 No.92 (栗林公園)、竹内】



汚れたコンクリート護岸もきれいに見えます。普段の石神井川とは大違いですね。桜の花による化粧効果はすごいですね。  
【作品 No.96 (石神井川)、J.S】

いま最先端の水辺施設ですね。  
川とのつながり（下の部分）はどうなっているのかも知りたくなりました。  
ホテルの一部ということですが、オープンに水辺を眺めながらコーヒー…、犬の散歩もできて。こんな良いところにいつでもだれでも入れたらいいですね。

【作品 No.98 (隅田川)、J.S】





### 何気ない水辺の写真にハッとさせられます

JRRN ニュースレターを読み進めていくと、最後に一枚登場する、岡村幸二さんの水辺からのメッセージ、いつも楽しみに拝見しています。100 回にわたり、発信をしていただきありがとうございます。8 年以上毎月続けられるのはきっと岡村さんの中にいつも何か明確な理念を持たれて、対象を探し、発信してこられたのがこの 100 回に表れているのだと理解しています。

私が特に印象深く残っているのが、No.51 の源兵衛川と No. 52 の最上川の写真です。博士課程の学生時代、ちょうど、私が全国 109 水系調査をはじめて全国の川をめぐり始めたところで、JRRN に連載を始めさせていただいた頃で、自身が川を最近歩き始めたけど、まだまだこんなに知らないところがあるんだと、写真を見て感動したのを覚えています。

源兵衛川は遠くに歩いていきたくなる奥行き感、最上川は川らしさを見渡せる開放感に強烈な印象を受けました。

No. 64 のドイツ・フランクフルトの町中の小水路、「ベヒレ」も印象的です。普通に歩いているとちょっと見逃してしまうような単なる溝のような小さな水路ですが、岡村さんの写真メッセージを通すと、あるべくしてそこにあるものに見えてきて、特別なものではなく、どんな身近な溝や池、川、水たまりでも、都市でも、田舎でも視点を変えると非常に魅力的なメッセージ性を感じられる存在であることを勉強させてもらいました。

100 回を区切りに一つの本にさせていただきたいなあと個人的には思っています！ぜひ、併せて 101 回目からストーリーを載せた第 2 巻の発行も楽しみにしています！

この度は 100 回記念おめでとうございますと同時にありがとうございます。

JRRN 会員・川系男子  
(土木研究所自然共生研究センター)  
専門研究員 坂本 貴啓

(水辺からのメッセージ 100 号記念特集 終わり)

## JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2017年8月末まで提供分) Information from member

## 【JRRN 会員からの提供情報】

## ■ 第25回リバーフロント研究所発表会 (9/8)

公益社団法人リバーフロント研究所より本年の研究発表会のご案内です。

■日時: 2017年9月8日(金)

10:30~18:00

■場所: 豊洲シビックセンターホール 5階 (江東区豊洲2-2-18)

■参加費: 無料

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2847.html>



## 【JRRN 会員からの提供情報】

## ■ 石井樋 400 年祭シンポジウム 2017 (10/8)

古賀河川図書館の古賀館長より、佐賀市で開催される「石井樋 400 年祭シンポジウム 2017」のご案内です。

■日時: 2017年10月8日(日)  
13:00-16:30

■場所: 佐賀市文化会館 (佐賀県佐賀市)

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2851.html>



## 【JRRN 会員からの提供情報】

## ■ 第8回有明海再生シンポジウム (9/17)

古賀河川図書館の古賀館長より、福岡県柳川市で開催される「第8回有明海再生シンポジウム~コウノトリの里づくりに学ぶ うなぎの里づくり」のご案内です。

■日時: 2017年9月17日(日)  
13:00-15:00

■場所: 柳川市民会館 (福岡県柳川市)

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2844.html>



## 【JRRN 会員からの提供情報】

## ■ 第2回デ・レイケ導流堤シンポ in 大川 (9/17)

古賀河川図書館の古賀館長より、福岡県大川市で開催される「第2回 デ・レイケ導流堤シンポジウム in 大川」のご案内です。

■日時: 2017年9月17日(日)  
13:00-18:00

■場所: おおかわ交流プラザ (福岡県大川市)

■参加費: 無料

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2830.html>



## 【海外からの提供情報】

## ■ 「RRC (英国河川再生センター) 最新ニュースレター」ご紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2017年7月号) が事務局より届きました。

本号では、RRC 行事案内、Tweed川の国際河川賞最終選考進出、河川再生モニタリング手引き PRAGMO 更新等が紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2838.html>



## 【海外からの提供情報】

## ■ 「ECRR (欧州河川再生センター) 最新ニュースレター」ご紹介

ECRR (欧州河川再生センター) の最新会報 (2017年8月号) が事務局より届きました。

本号では、ポーランド、イタリア、ロシア、フランス、そしてイギリスの各国河川再生センターの投稿記事がご覧いただけます。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2841.html>



## 会議・イベント案内 (2017年9月以降) Event Information

## (国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

## ■第193回 河川文化を語る会『船上講演『川から見る東京』』

○日時：2017年9月5日(火) 18:30~20:30  
 ○主催：公益社団法人日本河川協会  
 ○場所：「屋形船 三浦屋」乗船場(東京都台東区)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2631.html>

## ■第10回 いい川・いい川づくりワークショップ

○日時：2017年9月9日(土)~10(日)  
 ○主催：いい川・いい川づくり実行委員会  
 ○場所：福岡大学(福岡県 福岡市)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2584.html>

## ■琵琶湖外来魚駆除大会

○日時：2017年9月10日(日) 10:00-15:00  
 ○主催：琵琶湖を戻す会  
 ○場所：草津市津田江1-北 湖岸緑地(滋賀県草津市)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2629.html>

## ■第2回 デ・レイケ導流堤シンポジウム in 大川

○日時：2017年9月17日(日) 13:00-18:00  
 ○主催：NPO 法人大川未来塾  
 ○場所：おおかわ交流プラザ(福岡県大川市)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2625.html>

## ■第8回 有明海再生シンポジウム

○日時：2017年9月17日(日) 13:00-15:00  
 ○主催：有明海再生講演会実行委員会  
 ○場所：柳川市民会館(福岡県柳川市)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2633.html>

## ■応用生態工学会第21回大会/ELR2017 名古屋

○日時：2017年9月22日(金)~25日(月)  
 ○主催：応用生態工学会  
 ○場所：名古屋大学(愛知県名古屋市)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2588.html>

## ■石井樋400年祭シンポジウム2017

○日時：2017年10月8日(日) 13:00-16:30  
 ○主催：NPO 法人嘉瀬川交流軸  
 ○場所：佐賀市文化会館(佐賀県佐賀市)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2639.html>

## ■第17回 川に学ぶ体験活動全国大会 in 北九州

○日時：2017年10月14日(土)~15(日)  
 ○主催：川に学ぶ体験活動協議会  
 ○場所：北九州市芸術劇場ほか(福岡県北九州市)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2586.html>

## 書籍等の紹介 Publications

## ■水辺の小さな自然再生～あなたもはじめてみませんか？(2017.3 発行)

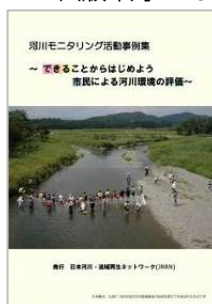
- ・発行：「小さな自然再生」研究会／日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・発行年月：2017年3月
- ・ページ数：16ページ



水辺でできる小さな自然再生の更なる普及促進を目的に、小さな自然再生の概要や取組む際の留意点、また「小さな自然再生」研究会による普及促進活動を紹介した簡易冊子です。

## ■河川モニタリング活動事例集～できることから始めよう 市民による河川環境の評価～(2014.3 発刊)

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授(JRRN 理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>  
 JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

## JRRN 会員募集中 JRRN membership

## ■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

## ■ 会員の特典

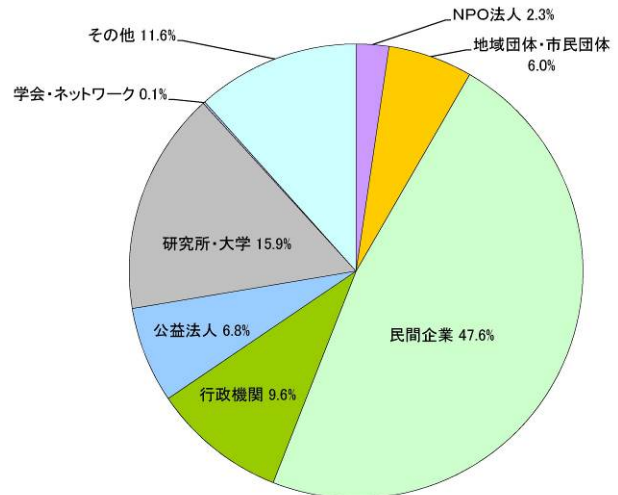
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週1回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

## ■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2017年8月31日時点の個人会員の所属構成  
(個人会員数: 766名、団体会員数: 60団体)

※8月の新規入会数: 個人会員 3, 団体会員 0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

| 提供サービス                                                             | JRRN<br>個人会員 | JRRN<br>団体会員 | 非会員<br>(一般) |
|--------------------------------------------------------------------|--------------|--------------|-------------|
| 1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1                                      | ◎            | ◎            | ◎           |
| 2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2                                       | ◎            | ◎            | ◎           |
| 3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3                                               | ◎            | ◎            | ×           |
| 4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3                        | ◎            | ◎            | ×           |
| 5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4                                       | ◎            | ◎            | ×           |
| 6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5                                 | ◎            | ◎            | ×           |
| 7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6 | △※7          | ◎            | ×           |
| 8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載                             | ×            | ◎            | ×           |
| 9 ARRAN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8                    | ×            | ◎            | ×           |
| 10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9                            | ×            | ◎            | ×           |

会員特典詳細はウェブサイト参照: <http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

## 【お気軽にお問い合わせください】

## 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財)リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net)

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

